



# どんぐり



パークセンターだより 第82号 2007年2月・3月号

## 北上する昆虫たち

自然解説員  
田中宏卓

今年度の冬は例年に比べかなり暖かいと新聞やTVで報道されているようですが、皆さんがこの原稿げんこうを読まれているときはどうでしょうね。暖かいでしょうか？それとも寒いでしょうか？

最近、地球温暖化おんだんかやヒートアイランド現象げんしょうなどにより昔よりも気温が上昇しているといわれています。私には松戸市の気温が本当に上昇しているのかどうかを科学的に判断することは難しいのですが、昆虫を観察していると温暖化の影響なのかどうかはわからないものの、本来はもっと南の方にしか生息せいそくしていないはずの昆虫を公園内で見かけることが多くなってきています。今回はこうした本来は南の方の昆虫なのに最近公園内でも見かけるようになった昆虫たちをいくつか紹介したいと思います。

### 1. ナガサキアゲハ(写真1)

ナガサキアゲハはアゲハチョウ科に属する大型の黒色アゲハチョウです。このアゲハチョウは20年前のチョウの図鑑ずかんでは近畿地方よりも南にいと書かれているのですが(福田, 1982)、近年は関東地方でも見られるようになり、松戸市では2003



写真1. ナガサキアゲハ (左: オス、右: メス)

年の9月に初めて確認されています(近藤, 2003)。2003年、2004年にはこのチョウは年に数回程度公園内で見かける程度だったのですが、昨年はどういうわけか非常に数が多くなり、21世紀の森と広場で一番普通のアゲハチョウになってしまいました。おそらく昨年園内で見かけられた方も多いのではないかと

思うのですが、どうでしょう？

ナガサキアゲハはオスとメスで大きく色合いが異なり、オスは黒色地に青色の鱗粉が散在しているのに対し、メスでは後翅に白色の紋が現れることで雄雌を区別できます。またクロアゲハという前から松戸にいる黒いアゲハチョウに似ているのですが、このチョウとは後翅に突起がないことで区別することができます(ただし、南西諸島では例外的にまれに突起のあるメスが確認されることがあります)。

また、このチョウは幼虫が普通の家庭でも植えられているようなミカンやナツミカンが大好きなので街中でもよく見かけます。暖かくなったら皆さんの住んでいる家の庭先でも見られるかもしれませんね。

## 2. ツマグロヒョウモン(写真 2)

ツマグロヒョウモンはタテハチョウ科に属するチョウで名前のように豹柄の模様が翅にあるのが特徴です。このチョウも20年前の図鑑では本州西南部によりも南にいと書かれています(白水, 1983)、どういうわけだかどんどん北上してくるようになり、



写真 2. ツマグロヒョウモン (左: オス、右: メス)

松戸市では2001年の8月に初めて確認されました(佐藤, 2003)。

このチョウはメスがカバマダラというマダラチョウ科の有毒物質を体を含むチョウに擬態しているといわれているのですが、カバマダラはいまのところ関東地方にはいないようです。カバマダラに擬態しているはずのチョウが擬態相手がないにもかかわらず、分布を広げていくという現象が昆虫生態学者に注目されています。

また、このチョウはスミレの仲間が幼虫の餌になっており、ビオラやパンジーなども好むようです。皆さんの家でもパンジーを植えられているとこのチョウが飛んでくるかもしれません。

## 3. ヨコヅナサシガメ(写真 3)

ヨコヅナサシガメはサシガメ科というほかの昆虫などを襲ってその体液を吸汁して生活する特殊なカメムシの仲間です。いかにも恐ろしそうな色と格好をしているカメムシだと思いませんか？このカメムシも図鑑などでは中部地方よりも南に生息していることになっているのですが、ナガサキアゲハ、ツマグロ

ヒョウモン同様に北上していることが知られており、21世紀の森と広場では昨年始めて確認されました(田中, 未発表)。

このカメムシは桜などの樹木の幹などに集団で越冬<sup>えいとう</sup>することが知られており、園内でも越冬していることが確認されています。このサシガメは比較的小となしい部類のサシガメだと思われるのですが、ヨコヅナサシガメの含まれるサシガメ科の昆虫は人を刺すことがあり、また刺されるとたいへん痛いことが有名です。見かけてもあまり触らないほうがいいと思います。十分気をつけてくださいね。



写真3. ヨコヅナサシガメ

(左: 成虫、右: 越冬幼虫)

今回は比較目立つもので北上してきていることが明らかな3種の昆虫を紹介させていただきました。これら昆虫が北上している理由はまだよくわかっていないことも多く、この3種が北上していることが地球温暖化が進行している証拠<sup>しょうこ</sup>であると言うことは難しいようです。ただ、この3種の昆虫の北上の理由が地球温暖化の影響によるものではないとしても、温暖化により南方の生物が北上するとともに、もともといた生物がより北方や高い山に追いやられたり絶滅<sup>ぜつめつ</sup>したりすることが予想されています。

これらの昆虫を野外でみかけられたら私たちを取り巻く環境が地球温暖化などの現象によって大きく変化し始めていることや、それによって自然環境や私達の生活<sup>おびや</sup>が脅かされるであろうことを少し考えていただけたらな…と思います。

#### 引用文献

福田晴男(1982) 原色日本蝶類生態図鑑 . 保育社, 354pp.

近藤頼人(2003) 松戸市でナガサキアゲハを撮影. 房総の昆虫, 31: 13-14.

佐藤隆士(2003) 松戸市千駄堀のチョウ相. 房総の昆虫, 29: 9-19.

白水 隆(1983) 学研生物図鑑 昆虫 [チョウ]. 学習研究社, 305pp.

# 日本の椿

みどりの相談員  
の ぐ ち の り つ ぐ  
野 口 宣 二

今年は何故かヤブツバキの花が例年よりいくぶん早めに咲き始めたようである。

遠い昔から歌人にうたわれ茶人に愛され、品種の収集や鑑賞が行われてきたが、世界中の常緑広葉樹の中でも、ツバキほど変化の多い美しい花をつける樹木はないだろう。しかもその花は、美しさをみせかけようとしない美しさをもっている。現在数多く栽培



されているのは、日本に自生している**ヤブツバキ**（ヤマツバキ）の改良種で、ヤブツバキは、南は鹿児島県の屋久島から北は青森県夏泊半島の突端までいたるところに自生している。この野生のツバキの中には、まれに白い花や<sup>かよう</sup>花容・花色が特に優れた美しいものもあり、長崎県五島市福江島玉之浦の山中で、炭焼業者により偶然発見された<sup>しろふくりん</sup>白覆輪の一重筒咲の「玉の浦」という品種もその一つである。私はこの自然変異種が好きで、庭に数本植えて楽しんでいる。ツバキの園芸品種には驚くほど変わった花をつけるものがあるが、人工交配によって容易に変化する性質もある。熊本県のツバキ愛好家達は、ある目標をかけた**肥後ツバキ**をつくりあげていて、「花容は一重咲きで単純清楚であること。オシベは梅の花のオシベのように花の中心部で開いていること」が目標でその条件にあう品種をつくり、その品種の一群を「肥後ツバキ」という名称のもとに愛培している。また花色とその模様の変化もあって、ツバキ愛好家の間で人気を博している。

日本海に面する富山県・新潟県・山形県地方にとくに多く自生している**ユキツバキ**がある。これは太平洋沿岸地方のヤブツバキとはまた異なった性質と趣があり、その変種のなかには雪国生まれの独特の情緒ある優雅なものは少なくない。その他に「<sup>わび</sup>佗助」「<sup>ゆうらく</sup>有楽」「孔雀椿」など植物学的に変わった特徴をそなえたものもあって、庭木や切花として観賞されている。

ところで、一般にツバキとは全く異なる花木に思われている**サザンカ**もまたツバキ属の植物で、その性質はツバキと共通している点が多い。サザンカも日本産の花木として外国でも庭木として植えられ、毎年のように新しい品種が発表され

ている。

謙虚な美しさ、気品のある美しさ、それがツバキの花の良さであり国境を越えて愛好されるのも、そこのあるように思える。



## 2月・3月の催し物



講座	日時	対象・人数	講師	費用	受付
こども自然体験 「冬越しの昆虫を探してみよう」	平成19年2月3日(土) 13:30~15:00	小学3年生~6年生 30名	自然解説員 田中宏卓氏 吉岡明良氏	無料	1/15~
みどりの講習会 「プロに学ぼう!バラの手入れ」	平成19年2月10日(土) 13:30~15:00	どなたでも 60名	バラ園芸アドバイザー 岩浪 孝氏	無料	1/15~
みどりの講習会 「手軽な小品盆栽を楽しもう!(講義・質問)」	平成19年2月11日(日) 13:30~15:00	どなたでも 30名	日本盆栽協会公認講師(松戸支部長) 真嶋誠一氏	無料	1/15~
バードウォッチング (雨天中止)	平成19年2月18日(日) 10:00~11:30	どなたでも 当日先着 25人	自然解説員 今村裕之氏	無料	当日受付
園芸教室 「家庭で楽しめる春の挿し木(実習)」	平成19年2月24日(土) 13:30~15:00	どなたでも 20名	みどりの相談員 青島尚祐氏	無料	2/1~
園芸教室 「夏野菜の作り方」	平成19年3月10日(土) 13:30~15:00	どなたでも 45人	みどりの相談員 小林喜代次氏	無料	2/15~
みどりの講習会 「イギリスの庭園から学ぶ素敵な庭づくり」	平成19年3月11日(日) 13:30~15:30	どなたでも 60人	ハーブ研究家 桐原春子氏	無料	2/15~
みどりの講習会 「春を彩るハンギングバスケット」	平成19年3月17日(土) 13:30~15:00	どなたでも 20人	ハンギングバスケットマスター 秋山英史氏	3,000円	3/1~
バードウォッチング (雨天中止)	平成19年3月18日(日) 10:00~11:30	どなたでも 当日先着 25人	自然解説員 直井 宏氏	無料	当日受付
森のクラフト教室 「小枝で作る鉢カバー」	平成19年3月18日(日) 13:30~15:30	どなたでも 20人	ネイチャークラフトデザイナー 山中琴江氏	500円	3/1~
みどりの教室 「樹木の健康診断 ~樹木からのメッセージ」	平成19年3月24日(土) 13:30~15:30	どなたでも 25人	樹木医 真嶋好博氏	無料	3/1~
園芸教室 「自宅の洋ランを植え替え(株分け)しましょう!」	平成19年3月25日(日) 13:30~15:00	どなたでも 20人	みどりの相談員 丸尾三恵子氏	1000円	3/1~

注) 予定に変更が生じる場合がございますので、詳細はパークセンターまでお問い合わせ下さい。

# 森を育てる鳥達

自然解説員  
直井 宏

今シーズンの「陸鳥」は冬鳥、漂鳥、留鳥ともに種類が多く「21世紀の森と広場」の観察舎でも「カワセミ、カケス、アリスイ、ベニマシコ、ウソ、サンカノゴイ、ミヤマホホジロ、アトリ、アカゲラ、アオゲラ、オオマシコ」等を見る事が出来ました。その中でも森を拡げ育てる事に大きな働きをする「カケス」は9月の末頃より松戸市と近隣でも姿を見せ始めて「夏鳥」の「キビタキ」を始め繁殖を終えて南へ渡る途中の多くの鳥達がみられた。

10月の初旬には関東地方の全域で非常に多数の個体が観察されました。この秋は山地の落葉広葉樹の「ブナ、カシワ、ミズナラ、コナラ」等のドングリ類の凶作ともいえる程の不作が「カケス」の「シラカシ、スタジイ」等のドングリが比較的によく実を付けた関東地方への早期の移動となったと思われます。森林の生態系の頂点に君臨する「ツキノワグマ」も越冬するために欠かす事の出来ないドングリの不作がこの秋以降は食べ物の豊富な山地の人里に各地で出没して、人間や農作物に被害を与えて「有害獣」として4月より11月末までになんと4,732頭も捕獲されて、その9割を超える4,251頭もが捕殺処分されました。この数は環境省が1991年に全国で生息数の調査をした時の8,400~12,600頭の平均の約40%に当り生態系への深刻な影響が危惧されています。自然は時には非常に繊細でドングリの不作という1つの出来事が生態系の頂点に君臨する生き物の絶滅に及ぶ程関連性が深い物です。

これから森を拡げ育てる鳥達の働きを紹介します。

「カケス」カラス科33cmキジバトと同じ大きさ、頭が良く他の鳥の鳴き真似が上手。縄張り内の移動では直線的にフワフワと1列縦隊で飛び翼の青色斑と白い腰が目立ちます。

雑食性で動物質、植物質とどちらも食べま



カケス

す。秋から初冬にかけては「ブナ、ミズナラ、コナラ、シラカシ、スダジイ」等の好物のドングリを、食べ物の乏しい冬に備えて自分の縄張りへ「のど袋」に1度に3～5個も入れて運び、多い時は1日に300個位も林床の枯葉の下や木の隙間に隠して貯蔵し、その数は数千個になります。カラス科の「カケス」は頭が良く隠した場所は正確に記憶していて殆んどは食べますが、「ネズミ、リス、アカゲラ」等にも食べられて残ったドングリは発芽するのに適した深さなので発芽率が高く「落葉広葉樹」を主に森を拓げ育てる大切な役割を果たしています。

「アカゲラ」キツツキ科24cmツグミと同じ大きさ。木の幹に垂直に止って中にいる虫(昆虫が主)を捕えるために樹皮にしつかり食い込む前後に2本づつ有る「対趾足」とその鋭い爪。体を支える楔形の「羽軸」の太い4枚の「尾羽」。鋭い「嘴」と木を突く時の衝撃を吸収する筋肉と「頭骨」先端にギザギザの返しが有り異常に伸びて粘着性のある「舌」など優れた機能で害虫を捕えたり枯木の腐朽を早め良質な腐葉土を造り森の蘇生と成育を助けます。



アカゲラ

「キツツキ」の主な虫の捕え方は木の根元から廻り込みながら上に昇り虫を探しては次の木の根元に舞い降りて幹を廻りながら上に昇って樹皮下に潜む虫を探したり虫の穴を見つけた時は嘴で打診して探します。

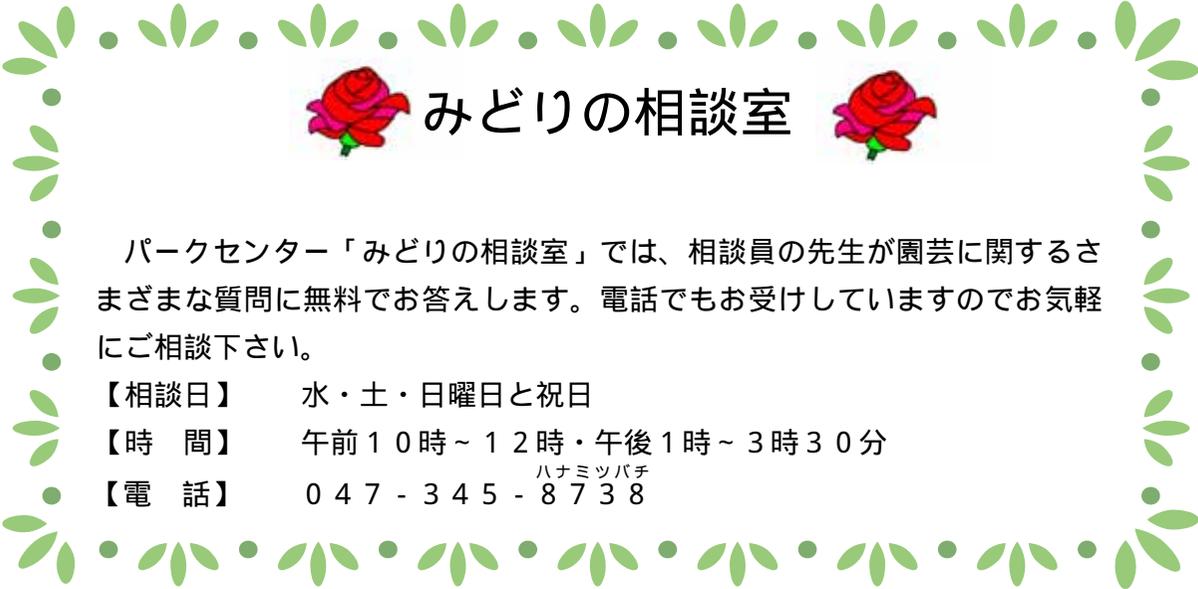
キツツキの多くは毎年新しい巣穴を掘って使用しますので古い巣穴は森で生息している他の鳥達の大切な巣となっています。「アカゲラ」を含むキツツキの仲間は多くの虫を捕って食べますがキツツキが使わなくなった古い巣穴で繁殖した他の鳥達は種類の違ったもっと沢山の虫を捕って食べてくれていますので森を守り育てる大切な働きをしています。

「アカゲラ」は秋から冬にかけては脂質分を多く含むマツの実やドングリ類を多く食べていますが、「ヤマゲラ」がエゴの実を啄む時は足で押えて食べるのと違い自分で突いて掘った凹みや木の枝の又にマツカサやドングリを押しつけ

て固定し突いて食べます。

初冬の雑木林を散策していますと常<sup>じょうりよくていぼく</sup>緑低木の「マンリョウ」から落葉高木<sup>らくようこうぼく</sup>の「ハリギリ」等まで、森に棲む鳥達の大好きな実をつけた樹木を多く見る事が出来ます。

場所を移す事の出来ない樹木は鳥が食べてくれる実を沢山つけて消化されず糞と一緒に「種子<sup>さんぶ</sup>散布」させて、他の広い地域へ子孫を広げるこれも森を拡げ育てる鳥達の働きです。



## みどりの相談室

パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738 <sup>ハナミツバチ</sup>

発行日：2007年2月1日  
発行：21世紀の森と広場パークセンター  
開館：9：00～16：00  
（3月1日からは9：00～16：30）  
月曜休館（祝日開館／翌日休館）  
〒270-2252 松戸市千駄堀269  
TEL 047-345-8900  
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。
- ・ペットを連れての入園はできません

